

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus											
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科			
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ					授業形態	授業形態	演習			
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○		○
担当教員名	園田 博一							ICT活 用	○		○
授業概要	<p>専門ゼミⅠの研究の方向性を再検討し、確認をしながら最終的な具体的な取り組み内容を吟味する。課題研究テーマを探っていく。これまでの取り組みを重視し、さらなる分析、考察をしていく。個々の実践課題と、論考を深め、制作研究等も進めていく。ゼミ活動の集大成としての課題を共有し、資料を整理し、制作研究と研究論文を作成する。</p>										
関連する科目	教科教育法（図画工作）、保育内容指導法（造形表現）、図画工作、図画工作演習、子どもと手作り遊び										
授業の進め方 と方法	<p>各自の研究の目的や方法について考えを進め、文献研究、資料収集を行う。テーマに基づいた理論的研究を深めていく。造形表現と子どもの発達段階についていろいろな角度から検討していく。卒業研究に向けた各自のテーマを深掘りする。ものづくりの背景や意味や歴史も研究の対象とする。</p>										
授業計画 【第1回】	ゼミ活動と個人研究計画の確認、テーマの確認。（1） これまでのゼミ活動を振り返り、卒論作成の流れを確認する。										
授業計画 【第2回】	ゼミ活動と個人研究計画の確認、テーマの確認。（2） テーマに沿った、文献調査や先行研究の収集状況を把握する。										
授業計画 【第3回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（1） 論文執筆へのアウトラインを描く。										
授業計画 【第4回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（2） 章立てを確認し、執筆の構想を練る。										
授業計画 【第5回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（3） 執筆状況の点検と、進捗状況を確認する。										
授業計画 【第6回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（4） 執筆状況の点検と、進捗状況を確認する。										
授業計画 【第7回】	中間発表に向けて 個人研究のまとめとゼミ内での報告・討論（1）										
授業計画 【第8回】	中間発表に向けて 個人研究のまとめとゼミ内での報告・討論（2）										
授業計画 【第9回】	研究報告書（卒論）の作成計画、制作（1） 執筆状況の点検と、進捗状況を確認する。										
授業計画 【第10回】	研究報告書（卒論）の作成計画、制作（2） 執筆状況の点検と、進捗状況を確認する。										

授業計画【第11回】	ゼミ内研究発表準備（1） 中間発表 power pointによるプレゼンテーションを制作する。中間発表に臨む。
授業計画【第12回】	ゼミ内研究発表準備（2） 中間発表
授業計画【第13回】	ゼミ研究発表（1） 各自の研究を発表する。資料、画像、参考文献等の整理を行う。
授業計画【第14回】	ゼミ研究発表（2）最終段階 各自の研究を発表する。パワーポイントによるプレゼンテーション準備を行う。予行練習を行う。
授業計画【第15回】	ゼミ活動（専門ゼミⅡ）の総括 卒論提出（冊子）
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究に対する積極性があり、主体的に参加する。 ・ 課題を発表、討論することで学習を共有する。 ・ 卒業研究に向けての研究構想を具体的に作成し、計画を推し進める。
学位授与の方針（DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	既習の内容を総動員し取り組む。（約1時間）
授業時間外学習【復習】	卒業研究と連結し総合的に取り組むことができるようにする。（約1時間）
課題に対するフィードバック	専門性や社会性、客観性を注視し、助言を行う。
評価方法・基準	参加の姿勢、ゼミ構成員であることの意識、課題の成果により総合的に判断する。 研究成果として論部形式での提出を求める。
テキスト	自分の研究分野を掘り下げるためのテキストを収集する。
参考書	参考文献、引用文献資料等、適宜紹介しながら研究推進する。
備考	